外来語語末長音の表記のゆれについて

小椋秀樹（立命館大学文学部）†

Orthographic Variation of Word-Final Long Vowels in Japanese Loanwords

Hideki Ogura (College of Letters, Ritsumeikan University)

１．はじめに

本稿は、小椋(2013)に続き、外来語表記のゆれの実態について、大規模コーパスを活用した実態調査を行うものである。

小椋(2013)では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ とする。)のコアデータ(1)を資料として、(1)外来語の表記がどの程度ゆれているのかレジスターごとに調査し、レジスターによる差異を明らかにした上で、(2)各レジスターにおける外来語表記のゆれの類型について明らかにした。

その結果、(1)外来語表記のゆれにはレジスターによる差異があること、(2)外来語表記のゆれの類型についても、やはりレジスターによる差異があることを明らかにした。また、外来語表記のゆれについては、具体的にどのようなゆれがあるか調査し、長音に関する表記のゆれ(語末長音を長音符号で書くか省くか、語中長音を長音符号で書くか省くか)が全てのレジスターに見られることを明らかにした。

そこで本稿では、小椋(2013)で全てのレジスターに見られ、また外来語表記のゆれの問題でも取り上げられることの多い、語末長音の表記のゆれを取り上げる。そして BCCWJ を資料として、主として計量的な観点から、表記のゆれの実態を明らかにする。

２．先行研究

外来語表記のゆれについて、大規模な実態調査を行ったものとしては、宮島・高木(1984)が挙げられる。

宮島・高木(1984)は、1956 年発行の雑誌 90 種を対象とした外来語表記のゆれに関する調査報告である。「外来語の表記について」(1952 年、国語審議会部会報告)に示された外来語表記の原則(19 項目)のうち、撥音、イ列・エ列の次の「ア」、外来語音「ティ」「ディ」、語末の-er 等の表記など、7 項目について、どのような表記が見られるのかを語ごとに示している。

このうち、本稿と関わるのは、語末の-er 等の表記である。これは、「外来語の表記について」に、

> 原語(特に英語)のつづりの終りの -er、-or、-ar、などをかたかながきにする場合には、長音符号「ー」を用いる。

---

† h-ogura@fc.ritsumei.ac.jp

(1) BCCWJ の設計等については、山崎(2007)、前川(2008)を参照。コアデータの設計・構成等については、小椋・小木曽・小磯ほか(2009)を参照。

ライター (lighter)　エレベーター (elevator)

ただし、これを省く慣用のあるものは必ずしもつけなくてもよい。

ハンマ (hammer)　スリッパ(slipper)　ドア(door)

とある規定について、雑誌 90 種での実態を調査したものである。結果は、長音符号で表記した語は異なり語数で 277 語、長音符号を省略した語は同 12 語と、長音符号で表記する語が圧倒的であることを明らかにしている。

宮島・高木(1984)の調査対象年から 57 年経過した現在、語末長音の表記について変化が生じていることは、小椋(2013)の結果から指摘することができる。

また、NHK の放送における外来語表記の基準改定に関連して、放送用語委員会でも外来語の語末長音の表記が議題となっている(山下 2012:77-78)。英語等の語末の-er、-or、-ar、-y は、NHK 及び新聞各社では原則として長音で書き表すことにしている。しかし、語末の長音を省略した表記を目にすることも多いため、長音を表記するという原則を再確認するということで、放送用語委員会で議題として取り上げられている。

これに対して、表音一致の原則を守るという立場から、原則を支持する意見が委員から出されている。なお、「～ティー」「～ディー」については、「ィ」が長音を含むと思っている人が多いのではないか、実際の発音がゆれているのではないか、専門語的な感覚で書きたいということから長音府符号が省略されるのではないかといった意見もある。

以上のような外来語語末長音の表記の現状を踏まえ、本稿では、BCCWJ を資料として、そこに収録された新聞・雑誌・書籍・Web の四つのレジスターを対象に、現代における外来語語末長音の表記のゆれの実態を計量的な手法によって明らかにしていく。具体的には、外来語の語末長音の表記がどの程度ゆれているのかレジスターごとに調査し、レジスターによる差異を明らかにしていくこととする。

３．調査資料・調査対象

３．１　調査資料

本稿では、複数のレジスターのテキストを収録した BCCWJ を資料とした。BCCWJ は、言語単位として長単位と短単位の 2 種類を採用している[(2)]。今回の調査にはそのうち短単位を用いた。調査したレジスターは、次のとおりである。

出版サブコーパス　：　2001 年-2005 年発行の新聞、雑誌、書籍

特定目的サブコーパス　：　2004 年 10 月-2005 年 10 月投稿の Yahoo!知恵袋

2008 年 4 月-2009 年 4 月投稿の Yahoo!ブログ

表 1：各レジスターの延べ語数

	延べ語数
書籍	28552283
雑誌	4444492
新聞	1370233
Web	20451020

(2) 長単位、短単位の設計方針、認定規程等については、小椋・小磯・冨士池ほか(2011)を参照。

各レジスターの延べ語数は、表 1 のとおりである(短単位の語数。記号、補助記号、空白は除く。)。本稿では、Yahoo!知恵袋と Yahoo!ブログとをまとめて Web として扱うため、表 1 でもそのように示している。

３．２　調査対象

外来語の語末長音の表記でしばしば問題とされるのが、英語の語末が-er、-or、-ar の語である。外来語の語末長音の表記については、『外来語の表記』(1991 年、内閣告示第 2 号、内閣訓令第 1 号)で次のように規定されている。

英語の語末-er、-or、-ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる。

〔例〕　エレベーター　　ギター　　コンピューター　　マフラー
　　エレベータ　　コンピュータ　　スリッパ

長音符号で表記することを原則として示しつつも、長音符号を省く表記を寛容として認めている。このような、緩やかな性格の基準によって、語末長音の表記のゆれが生じており、山下(2012)に見られるように、しばしば問題となっているのである。また山下(2012)では、英語の語末が-er、-or、-ar の語以外に、語末が-y の語(例：「パーティーーパーティ」「コミュニティーーコミュニティ」)も取り上げられている。

小椋(2013)では、語末長音を長音符号で書くか省くかに関するゆれが、全レジスターに見られることを指摘した。このゆれている語の多くは、英語の語末が-er、-or、-ar、-ty、-dy、-gy、-ry の語であった。

以上のことから、本稿では、英語の語末が-er、-or、-ar、-ty、-dy、-gy、-ry の語を調査対象として取り上げることとした。また、本稿で取り上げる表記のゆれは、「コンピューターーコンピュータ」「セキュリティーーセキュリティ」のような、語末長音を長音符号で書くか省くかというゆれとした。つまり英語の語末が-er 等の外来語について、語末に長音符号があるか否かということのみを調査することとしたのである。そのため、「コンピューターーコンピュータア」のような、語末長音を長音符号で書くか仮名で書くかというゆれは、取り上げなかった。

3.1 節に述べたように、今回の調査では BCCWJ の短単位データを用いる。そのため、本稿でいう語末長音とは、短単位の末尾が長音ということである。また調査の便宜から、短単位データの「語彙素細分類」列に記載された原語の語末が、-er、-or、-ar、-ty、-dy、-gy、-ry の語を対象とした。

４．調査結果

４．１　レジスター別

各レジスターにおいて、どの程度、外来語語末長音の表記のゆれ(長音符号で表記するか省くか)が見られるのか見ていくこととする。

表 2 に、語末長音の表記にゆれの見られる語の異なり語数(「ゆれ」の欄)と、今回の調査対象である英語の語末が-er、-or、-ar、-ty、-dy、-gy、-ry の語の異なり語数(「異なり」の欄)に占める割合を示した。また、表 2 では、語末長音の表記にゆれの見られない語の異なり語数(「ゆれなし」の「計」の欄)を示すとともに、長音符号で書く表記のみが出現する語の異なり語数(「ゆれなし」の「符号」の欄)、長音符号を省く表記のみが出現する

語の異なり語数(「ゆれなし」の「省略」の欄)も示した。

表 2：語末長音の表記にゆれのある語の割合

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
Web	1106	254	23.0%	852	787	65
書籍	1233	259	21.0%	974	858	116
雑誌	891	136	15.3%	755	698	57
新聞	394	14	3.6%	380	364	16

表 2 を見ると、語末長音の表記のゆれの割合は、Web が 23.0%で最も高く、書籍が 21.0%でそれに次ぐ。雑誌は 15.3%で、Web・書籍に近い傾向を示している。一方、新聞は、ゆれの割合が 3.6%と最も低い。

語末長音の表記にゆれの見られない語については、各レジスターとも長音符号で書く表記の方が、長音符号を省く表記よりも圧倒的に多いことが分かる。表記にゆれが見られない場合、『外来語の表記』の原則や新聞各社の表記の基準に示されている表記が、そのほとんどを占めているということになる。

ところで、表 2 は度数 1 の語を含んで集計したものである。当然のことではあるが、度数 1 の語には表記のゆれは発生しない。そこで、ゆれが生じる可能性のある度数 2 以上の語に限って集計し直した。結果は表 3 のとおりである。これは、ゆれが生じる可能性のある語が実際にどの程度ゆれているかを示したものである。

表 3：語末長音の表記にゆれのある語の割合(度数 2 以上)

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
Web	934	254	27.2%	647	647	33
書籍	1042	259	24.9%	783	695	88
雑誌	720	136	18.9%	584	546	38
新聞	255	14	5.5%	241	238	3

表 2 と比べてレジスター別順位に変動はない。各レジスターとも、ゆれの割合は約 2%～4%程度高くなっている。

以上のように、表 2、表 3 から外来語語末長音の表記のゆれには、レジスターによる差異のあることが分かった。表記にゆれのある語の割合は、Web・書籍では 2 割台、雑誌では 1 割台と高くなっている。先にも述べたように、外来語語末長音の表記のゆれは、外来語表記のゆれの問題の中でも、よく指摘される現象である。今回の調査結果からも、そのことが確認されたといえよう。

新聞は、表記のゆれの割合が一桁台となっていることから、表記がかなりの統一されていることが分かる。また、ゆれのない語において、長音符号で書く表記の占める割合が、度数 2 以上の場合、98.8%と非常に高くなっており、『外来語の表記』や新聞各社の表記の基準に忠実に従っていることが確認された。

なお新聞において、表記にゆれのある語が 14 語見られる。例えば、次のような例である。

「秋津コミュニティ」は、習志野市立秋津小学校区の住民が(PN4d_00022)
農業などの産業基盤、地域コミュニティーを含めた(PN4i_00014)
コメディ・ド・フウゲツという企画を三十年も続けてこられたのは(PN2k_00011)
今度は実際にコメディー映画に出たいですね(PN3j_00007)
半導体メモリー製造販売のエルピーダメモリ（東京）は九日(PN4k_00016)

ここで注意したいのは、長音符号を省く表記は、いずれも固有名のものということである。長音を省いた表記が固有名で採用されている場合、新聞としてもその表記を用いざるを得ない。一方、新聞各社の表記の基準では、長音符号で書くと定めている。その結果、表記にゆれが生じることになるのである。

４．２　英語語末別

本節では、英語の語末別に表記のゆれの割合に差異があるのか見ていくこととする。

表 4 は、度数 2 以上の外来語を対象に英語の語末別にゆれの割合を示したものである。この表では、表記にゆれの見られる語の異なり語数(「ゆれ」の欄)と異なり語数全体(「異なり」の欄)に占めるその割合を示した。

「-er 等」は、『外来語の表記』で「英語の語末-er、-or、-ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。」と規定されている語である。「-ty、-dy」は「ティ（ー)」「ディ（ー)」と長音符号の前に小書きの「ィ」が表記されるものである。また「ティーディ」という清濁の関係にあるため、表では一つにまとめた。

なお-ty、-dy、-gy、-ry は、『外来語の表記』に規定のないものである。

表 4：表記にゆれのある語の割合(語末別、度数 2 以上)

	-er等			-ty，-dy			～gy			−ry		
	異なり	ゆれ	割合	異なり	ゆれ	割合	異なり	ゆれ	割合	異なり	ゆれ	割合
Web	759	162	21.3%	87	67	77.0%	17	4	23.5%	71	21	29.6%
書籍	793	170	21.4%	122	64	52.5%	34	5	14.7%	93	20	21.5%
雑誌	553	68	12.3%	85	55	64.7%	14	1	7.1%	68	12	17.6%
新聞	208	3	1.4%	24	8	33.3%	3	1	33.3%	20	2	10.0%

語末が-er 等の外来語の表記のゆれの割合は、Web・書籍が約 21%、雑誌が約 12%、新聞が約 1%で、表 2、表 3 のレジスター別順位と同じである。

一方、語末が-ty、-dy の外来語は、語末長音の表記がかなりゆれているということが分かる。Web・書籍・雑誌では半数以上の語にゆれが見られる。語末が-gy、-ry の外来語のゆれの割合は、語末が-ty、-dy の外来語よりも低いが、それでも、-gy については Web で 2 割を、書籍で 1 割を超えており、-ry については Web と書籍で 2 割を、雑誌で 1 割を超えている。

語末が-ty、-dy、-gy、-ry の語については、『外来語の表記』に規定がないことが、ゆれを生じさせる要因になっている可能性があろう。また語末が-ty、-dy の語については、NHK 放送用語委員会での委員の意見にある、「ィ」が長音を含むと思っている人が多いのではないか、実際の発音がゆれているのではないかといった観点から考察を加える必要もある。

５．終わりに

本稿では、BCCWJ のコアデータを対象に外来語表記のゆれの実態調査を行った。その結果、次のことが明らかとなった。

(1) 外来語語末長音の表記のゆれにはレジスターによる差異が見られる。Web・書籍・雑誌は、ゆれの割合の高いレジスターといえる。一方、新聞は『外来語の表記』、新聞各社の表記の基準に忠実に従い、表記をかなり統一している。

(2) 外来語語末長音の表記のゆれには、英語の語末による差異も見られた。語末が-er 等の語よりも語末が-ty 等の語の方がゆれの割合が高い。特に、語末が-ty、-dy の語では、Web・書籍・雑誌において半数以上の語に表記のゆれが見られる。

本稿は、外来語語末長音の表記のゆれに関する調査報告として位置づけられるものである。レジスターによる差異や英語の語末による差異が見られる要因について、今後、詳細に考察を加える必要がある。

また、外来語語末長音の表記には、どのように発音しているかということも関わってくる。『日本語話し言葉コーパス』を資料として、発音のゆれについても確認しておく必要があろう。今後の課題としたい。

謝　辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト(基幹型)「コーパス日本語学の創成」(リーダー：前川喜久雄)、同「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」(リーダー：相澤正夫)、JSPS 科研費「大規模コーパスに基づく現代語表記のゆれの実態解明」(代表者：小椋秀樹)による補助を得た。

参 考 文 献

小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・冨士池優美・宮内佐夜香・渡部涼子・竹内ゆかり・小川志乃・小西光・原裕・中村壮範(2009)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における形態論情報付与作業の進捗状況」『特定領域「日本語コーパス」平成 20 年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』、pp.57-64.

小椋秀樹・小磯花絵・冨士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕(2011)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第 4 版(上・下)』(国立国語研究所内部報告書 LR-CCG-10-05-01、LR-CCG-10-05-02).

小椋秀樹(2013)「現代日本語における外来語表記のゆれ」『現代日本語の動態研究』(印刷中).

前川喜久雄(2008)「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4-1、pp.82-95.

宮島達夫・高木翠(1984)「雑誌九十種資料の外来語表記」『研究報告集』5(国立国語研究所報告 79)、pp.43-76.

山崎誠(2007)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の基本設計について」『特定領域「日本語コーパス」平成 18 年度公開ワークショップ(研究成果報告会)予稿集』、pp.127-136.

山下洋子(2012)「外来語の発音・表記について ～[wei]のカタカナ表記と語末の長音～」『放送研究と調査』62-12、pp.74-79.